

北海道浮魚ニュース

平成 23 (2011) 年度 3 号

2011 年 5 月 31 日

北海道立総合研究機構水産研究本部 函館水産試験場

ホームページ : http://www.fishexp.hro.or.jp/ukiuo/uki_index.htm

日本海スルメイカ北上期調査結果

5 月 23 日から 28 日までの期間、松前沖から秋田県男鹿半島沖にかけての海域で、函館水産試験場調査船金星丸 (151 トン、イカ釣機 5 台、集魚灯 20 灯装備) により実施したスルメイカ調査の結果をお知らせします。

調査期間中のスルメイカ分布密度は昨年を下回った。魚体の大きさは昨年及び過去 5 年平均に比べ小さい。

1. 水温分布 (図 1)

漁獲調査点 6 点の表面水温は 9.7 ~ 15.2 (昨年 10.1 ~ 13.0) の範囲にあり、津軽半島西方沖の St.1 と青森県久六島西方沖の St.6 を除いて昨年を上回りました。水深 50 m の水温は 5.2 ~ 10.9 (昨年 3.6 ~ 10.3) の範囲にあり、秋田県男鹿半島沖の St.11 を除いて昨年を上回りました。

スルメイカの分布の目安となる水深 50m の水温分布は、秋田沖から津軽海峡周辺にかけての沿岸部ではほぼ一様に 10 台で、昨年と同じく青森県久六島西方から北西側の沖合に 4 ~ 6 以下の低水温の海域が見られました。

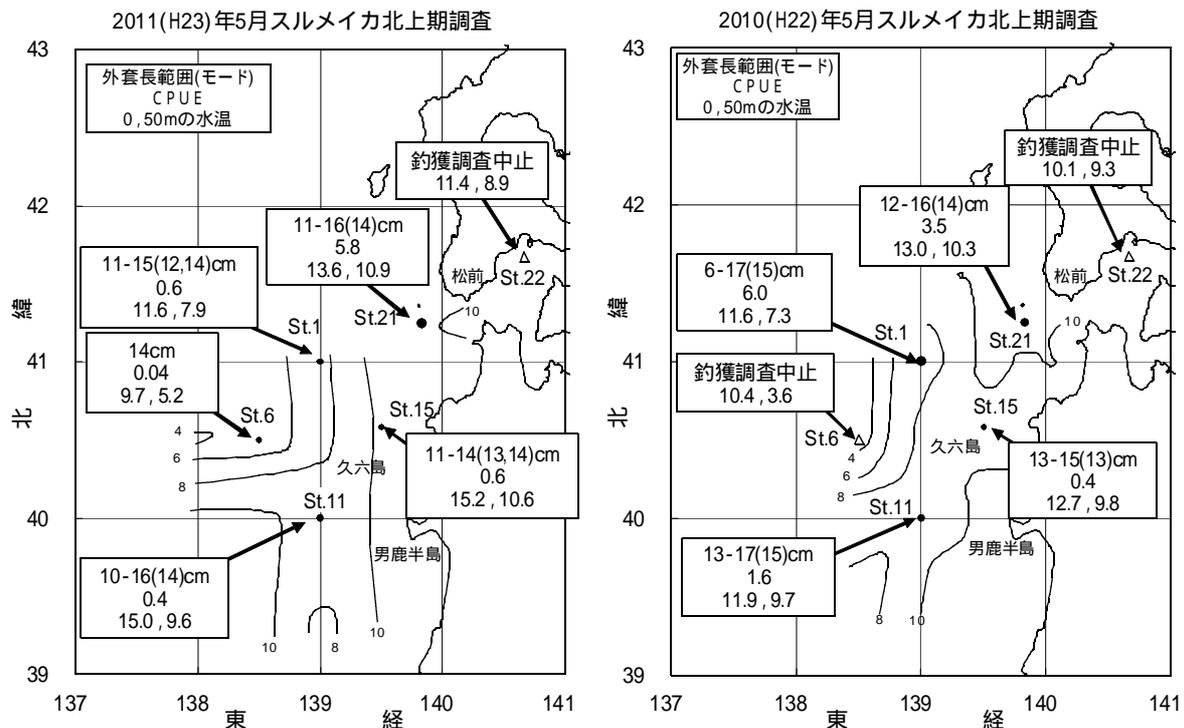


図1 スルメイカ漁獲調査結果 (2010年との比較)。●は漁獲調査点。面積はCPUEに比例。
×は漁獲なし。△は釣獲調査中止。等温線は水深50mの水温 (°C)

2. 分布密度 (図 1、図 2)

松前沖 St.21 以南の漁獲調査点 5 地点の CPUE(2 連式イカ釣機 1 台 1 時間当たりの漁獲尾数) は 0.04 ~ 5.8 (昨年 0.4 ~ 6.0) の範囲にあり、最も CPUE が高かったのは松前沖の St.21 (CPUE 5.8) でした。平均 CPUE は 1.5 で昨年 (2.5) を下回り、2001 年以降で最も低い値となりました。

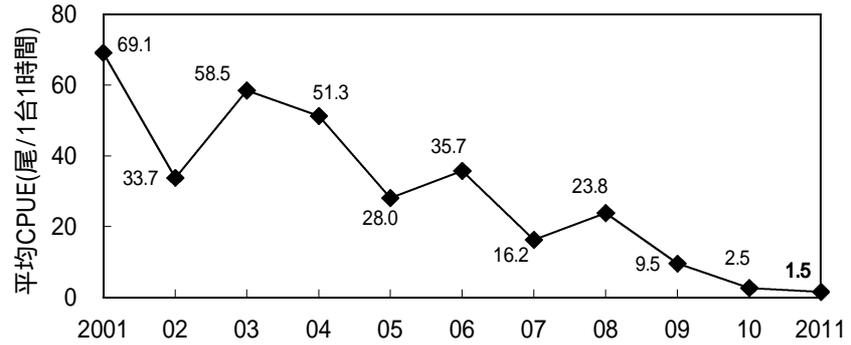


図2 平均CPUEの経年変化(2001年以降)

今回の調査では、例年魚群の分布の中心となる秋田県沖から青森県沿岸にかけての CPUE が昨年に続いて低い値となりました。現在、北陸から東北沿岸の各地で初漁が例年より遅くなっていることなどから、魚群の北上が遅れているものと考えられます。

今回の調査では、例年魚群の分布の中心となる秋田県沖から青森県沿岸にかけての CPUE が昨年に続いて低い値となりました。現在、北陸から東北沿岸の各地で初漁が例年より遅くなっていることなどから、魚群の北上が遅れているものと考えられます。

3. スルメイカの大きさ

調査海域全体でのスルメイカの外套長 (胴長) の範囲は 10 ~ 16cm (昨年 6 ~ 17cm) でした。最も多く漁獲されたイカの大きさ (モード) は 14cm (昨年 15cm) で、全体的な魚体サイズは昨年及び過去 5 年平均より小型でした (図 1、3)。各調査点のモードの範囲は 12 ~ 14cm (昨年 13 ~ 15cm) にありました (図 1)。

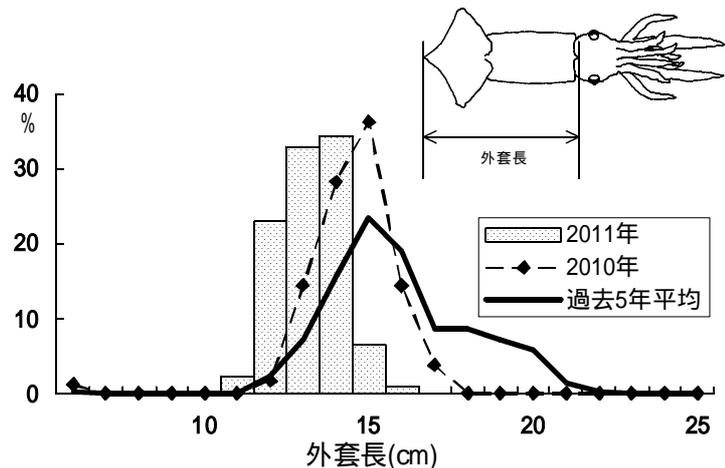


図3 調査海域全体の外套長組成

(文責 : 函館水産試験場調査研究部 TEL : 0138-57-6056 直通、FAX : 0138-57-5991)